

愛知県感染症情報

AICHI Infectious Diseases Weekly Report

2011年28週 (7月2週 7/11~7/17)

2011年6月報

愛知県感染症情報センター(愛知県衛生研究所内)

<http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/kansen.html>

E-mail: eiseiken@pref.aichi.lg.jp

連絡先: 052-910-5619 (企画情報部)

今週の内容

トピックス

手足口病、伝染性紅斑、麻しん、ヘルパンギーナ、結核
 病原体検出情報
 定点医療機関コメント
 マイコプラズマ、感染性胃腸炎、溶血性レンサ球菌感染症、手足口病 等

全数把握感染症発生状況 ()内は件数。

結核(26)、腸管出血性大腸菌感染症(5)、パラチフス(1)、レジオネラ症(3)、劇症型溶血性レンサ球菌感染症(1)、後天性免疫不全症候群(4)、麻しん(2)

2011年6月報

定点把握感染症報告数(保健所別、年齢別)

「グラフ総覧」は <http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/2f/graph.pdf>

トピックス

手足口病(図1)

28週の定点当たり報告数は10.9と警報レベル(定点当たり5.0以上)が継続しています。2011年に病原体定点から寄せられた32検体のうち、2検体からCV(コクサッキーウイルス)-A6、2検体からCV-A16が検出されています(2ページ「病原体検出情報」参照)。

【参考ページ】手足口病警報を発令します!! (7月7日発表)

<http://www.pref.aichi.jp/0000016940.html>

伝染性紅斑

28週の定点当たり報告数は1.29と警報終息基準値1.0を超えています。2011年愛知県においても、一部の麻しん疑い患者検体からヒトパルボウイルスB19(伝染性紅斑の病因ウイルス)が検出されています(2ページ参照)。

【参考ページ】

伝染性紅斑が流行しています! (6月9日発表) <http://www.pref.aichi.jp/0000009508.html>

麻しんと診断された伝染性紅斑の家族例(病原微生物検出情報/国立感染症研究所感染症情報センター)

<http://idsc.nih.gov.jp/iasr/31/367/pr3674.html>

麻しん

2011年は7月20日現在22件報告されています。年齢階層別内訳は、0~19歳13件、20歳以上9件です。麻しんの診断時には、発生届と併せて患者検体の提出をお願いいたします。

平成10年4月2日~平成11年4月1日生まれの人及び平成5年4月2日~平成6年4月1日生まれの人は、麻しん風しんの予防接種(MRワクチン)を夏季休業等の機会に受けましょう。

【参考ページ】

麻しん患者調査事業における麻しん患者発生報告状況 http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/2f/msl/msl_6.html

最近の知見に基づく麻疹の検査診断の考え方(国立感染症研究所感染症情報センター)

<http://idsc.nih.gov.jp/disease/measles/pdf01/arugorizumu.pdf>

麻しん・風しんの予防接種は2回受けましょう http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/2f/hi_4.html

ヘルパンギーナ

28週の定点当たり報告数は4.58、27週537人、28週834人です。

結核(図2)

2011年1~6月の報告数は1,031例(うち無症状病原体保有者288例)でした。2010年1~6月報告数は1,022例(同150例)、2010年総計は2,037例(同351例)でした。

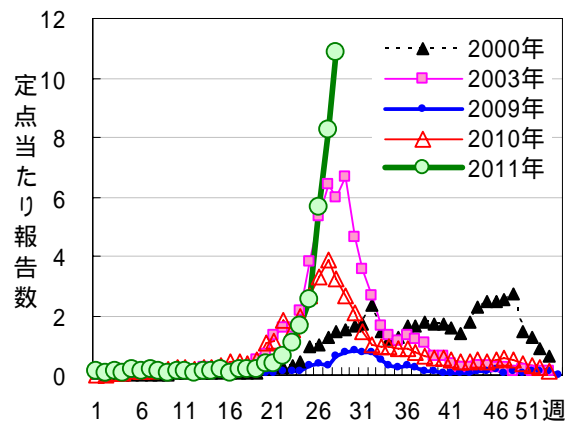


図1 手足口病

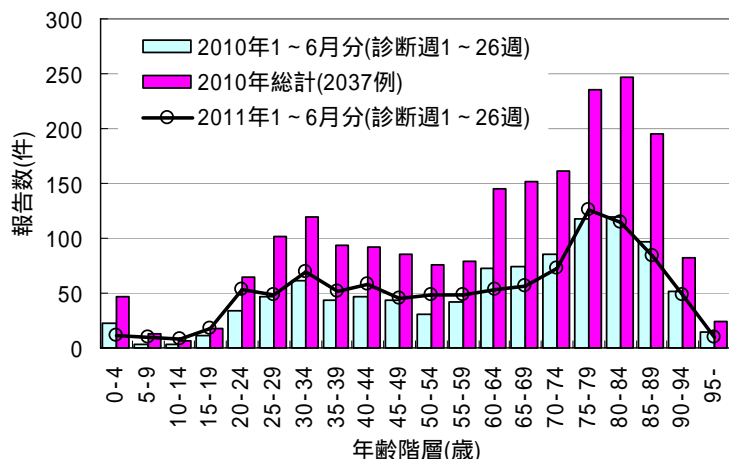


図2 結核の年齢階層別報告数(愛知県、無症状病原体保有者含む)

病原体検出情報 - 平成 23 年疾患別ウイルス検出速報 - 7月15日現在

	感染性胃腸炎	手足口病	ヘルパンギーナ	咽頭腺炎	流行性角膜炎	無菌性髄膜炎	脳炎・脳症	*インフルエンザ	**麻疹
患者数	143	32	10	9	23	14	9	358	8(34)
CV-A6		2							
CV-A16		2							
CV-B1						1			
CV-B2	1								
E-11	3					2	1	1	
FluAH1pdm								139	
FluAH3								100	
FluB								75	
MeV									1(2)
MuV						1			
RUBV									(1)
Rota A G1	26								
Rota A G2	1								
Rota A G3	26								
NV-G	29								
SV	3								
AstV	7								
Ad-2	2			1					
Ad-3	4			3	2				
Ad-5	1								
Ad-41	1								
B19V									(7)
検査中	27	25	9	5	9	2	2	1	3(3)
陰性	26	3	1		12	8	6	42	4(21)

*インフルエンザは 2010/2011 シーズンの検査結果。

**麻疹の()内は病原体定点医療機関以外からの患者数(別掲)。

略：ウイルス名(他の略名) Ad：アデノウイルス、AstV：アストロウイルス、B19V：ヒトパルボウイルス B19、CV：コクサッキーウイルス(Cox.) E：エコーウイルス、FluAH1pdm：新型インフルエンザウイルス、FluAH3：A 香港型インフルエンザウイルス、FluB：B 型インフルエンザウイルス、MeV：麻疹ウイルス、MuV：ムンプスウイルス、NV：ノロウイルス、Rota A：A 群ロタウイルス、RUBV：風疹ウイルス、SV：サボウイルス

関連ページ 1)「疾患別ウイルス検出情報」<http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/67f/prompt.html>

2)「2010/11 シーズンインフルエンザウイルス分離・検出状況」

http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/67f/infunri10_11.html

定点医療機関コメント(名古屋市除く)

尾張西部地区

6歳男、4歳男 カンピロバクター腸炎
小学生で咳、熱が続きマイコプラズマで抗体上昇例目立ちます。

【一宮市 あさのこどもクリニック】

21歳男マイコプラズマ感染症
アデノウイルス感染、手足口病、水痘あり。

【一宮市 後藤小児科医院】

マイコプラズマ感染症 2人

【一宮市 ささい小児科】

手足口病、ヘルパンギーナ、その他のウイルス性発疹症など、とにかく夏かぜが増えてきました。

【稲沢市 こどものお医者さんおがわクリニック】

コクサッキーA6によると思われる前腕、下肢に発疹を伴うヘルパンギーナが、手足口病と同時に流行している様です。一見、水痘の発疹にも似ていますが、比較的均一な大きさの発疹です。

【犬山市 武内医院】

手足口病多発中。

ヘルパンギーナも増加しています。

【江南市 医療法人みやぐちこどもクリニック】

手足口病、ヘルパンギーナ多発。

水痘散発。

【岩倉市 医療法人なかよしこどもクリニック】

溶連菌、水痘、手足口病、ヘルパンギーナが再び増えてまいりました。

家族内感染も見られます。

【清須市 丹羽医院】

尾張東部地区

手足口病、ヘルパンギーナが大流行です。
【豊明市 こども元気クリニック】
手足口病流行しています。
アデノウイルス感染症も目立ちます(咽頭結膜熱もみられます。)
その他、水痘、ヘルパンギーナ等。
【尾張旭市 医療法人誠和会佐伯小児科医院】
手足口病が流行中です。
【春日井市 春日井市民病院】
マイコプラズマ肺炎 続発中
手足口病、ヘルパンギーナ 多数
6か月の百日咳 1例(DPT1回のみ)
【春日井市 朝宮こどもクリニック】
手足口病が多いです。
【小牧市 小牧市民病院】

手足口病、伝染性紅斑が目立ちます。
手足口病は激しい発疹例も多くみられます。
【小牧市 志水こどもクリニック】
手足口病がふえております。
【小牧市 医療法人心正会鈴木小児科】
手足口病とマイコプラズマが多くみられています。
【半田市 半田市立半田病院】
8歳男 病原大腸菌O1(+)VT(-)
10歳男 病原大腸菌O86a(+)
【大府市 まえはらこどもクリニック】
手足口病多いです。(1歳台が中心)
アデノウイルス感染症(10名3歳から7歳)
病原大腸菌O18(1名、3歳)
病原大腸菌O25(1名、1歳)
【東海市 もしもしこどもクリニック】

西三河地区

イムノエースアデノ(+) 3歳男、6歳女
E.coli(O1) 2歳女
非典型的手足口病が流行しています。
【豊田市 星ヶ丘たなかこどもクリニック】
マイコプラズマ感染 5名
【豊田市 すくすくこどもクリニック】
手足口病が増加中。
咽頭結膜熱も散発しています。
【岡崎市 花田こどもクリニック】
5歳女 病原性大腸菌 O1
手足口病、ヘルパンギーナが散見されます。
【岡崎市 竜美ヶ丘小児科】
アデノ 4歳女、1歳男
1歳女 病原性大腸菌 O6(+)VT(-)
1歳男 病原性大腸菌 O1(+)VT(-)
【岡崎市 にいのみ小児科】
4歳、6歳男 アデノウイルス 滲出性扁桃炎
【岡崎市 医療法人川島小児科水野医院】

手足口病目立ちます
【碧南市 永井小児クリニック】
手足口病 多数
マイコプラズマ 2名
高熱のウイルス感染 3名
【知立市 宮谷クリニック】
手足口病が流行しています。
【西尾市 山岸クリニック】
病原性大腸菌O1VT - 1歳男
病原性大腸菌O1VT - サルモネラ菌O8 2歳女
【幸田町 とみた小児科】
手足口病が流行中
ヘルパンギーナが増加
【西尾市 やすい小児科】
発熱と口内炎でヘルパンギーナと思ったら、翌日手足に発疹が出る例がある。しかも水疱がかなりひどい。
【西尾市 こどもクリニック宮地医院】

東三河地区

手足口病流行中
【豊橋市 医療法人こどもの国大谷小児科】

マイコ肺炎まだ目立ちます
【蒲郡市 蒲郡市民病院】
6歳女 帯状疱疹
【豊川市 医療法人宝美会総合青山病院】

全数把握感染症発生状況（愛知県全体・保健所受理週別）2011年7月20日現在

一～三類感染症

<関連リンク> 届出基準 <http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/2f/todokedeki/jun110401.pdf>

結核（二類感染症）

報告保健所	2011年28週報告数			2011年累計(1～28週)		
	総数	喀痰塗抹検査 陽性者数再掲	無症状病原体 保有者再掲	総数	喀痰塗抹検査 陽性者数再掲	無症状病原体 保有者再掲
名古屋市(16保健所合計)	17	5	2	422	96	90
豊田市				44	15	8
豊橋市				45	9	16
岡崎市				49	9	20
一宮	3			85	25	22
瀬戸	4	3		93	23	21
半田				30	5	16
春日井				52	15	14
豊川				20	5	8
津島	1		1	35	4	11
西尾	1			30	6	11
江南				35	9	11
新城				5	1	
知多				70	12	36
師勝				25	9	4
衣浦東部				65	20	15
合計	26	8	3	1,105	263	303

腸管出血性大腸菌感染症（三類感染症）

番号	報告保健所	年齢	性別	発病月日	初診月日	診定月日	備考
1	豊田市	17歳	男	7/6	7/8	7/12	O157、VT1(+)VT2(+)
2	豊田市	16歳	女	7/4	7/9	7/12	O157、VT1(+)VT2(+)
3	豊田市	15歳	女	7/7	7/9	7/14	O157、VT1(+)VT2(+)
4	半田	26歳	女	7/11	7/11	7/14	O157、VT2(+)
5	津島	63歳	女	-/-	7/12	7/16	O157、VT1(+)VT2(+)

パラチルス（三類感染症）

番号	報告保健所	年齢	性別	発病月日	初診月日	診定月日	推定感染地域
1	豊田市	34歳	男	7/8	7/13	7/15	バングラデシュ

四類・五類感染症（全数把握）（推定感染経路、推定感染地域は確定も含む）

レジオネラ症（四類感染症）

番号	報告保健所	年齢	性別	病型	推定感染地域
1	一宮	83歳	男	肺炎型	国内
2	一宮	62歳	男	肺炎型	国内
3	衣浦東部	60歳	男	肺炎型	国内

劇症型溶血性レンサ球菌感染症（五類感染症）

番号	報告保健所	年齢	性別	推定感染地域
1	衣浦東部	15歳	男	国内

後天性免疫不全症候群（五類感染症）

番号	報告保健所	年齢	性別	病型	推定感染経路	推定感染地域
1	名古屋市	24歳	男	AIDS	性的接触	国内
2	名古屋市	52歳	男	AIDS	性的接触	国内
3	名古屋市	43歳	男	無症候性キャリア	性的接触	国内
4	名古屋市	41歳	男	無症候性キャリア	性的接触	国内

麻疹（五類感染症）

番号	報告保健所	年齢	性別	予防接種歴	推定感染地域
1	知多	12歳	男	有	国内
2	知多	2歳	男	有	国内

6月の一～五類感染症(全数把握対象)発生状況 [()は無症状病原体保有者再掲。]

2010～2011年に報告のあった 疾病名及び病型 ()内は全数把握対象疾病数		2011年6月			2011年 総計 <愛知県全体>	2010年 総計 <愛知県全体>	
		愛知県 (名古屋市除く)	名古屋市	愛知県全体			
一類 (7)	発生報告なし	0	0	0	0	0	
二類 (5)	結核	107 (31)	83 (23)	190 (54)	1,031 (288)	2,037 (351)	
三類 (5)	細菌性赤痢	0 (0)	0 (0)	0 (0)	5 (0)	11 (0)	
	腸管出血性大腸菌感染症	18 (4)	5 (2)	23 (6)	39 (12)	237 (56)	
	腸チフス	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (0)	0 (0)	
	パラチフス	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (0)	1 (0)	
四類 (42)	E型肝炎	0	0	0	2	3	
	A型肝炎	0	0	0	1	13	
	オウム病	0	0	0	0	4	
	チクングニア熱	1	0	1	1	-	
	つつが虫病	0	0	0	0	2	
	デング熱	0	0	0	5	21	
	ブルセラ症	0	0	0	0	1	
	ポツリヌス症	1	0	1	1	0	
	マラリア	1	1	2	4	1	
	レジオネラ症	6	1	7	16	43	
五類 (14)	アメーバ赤痢	1	3	4	16	53	
	ウイルス性肝炎	2	0	2	5	17	
	内訳	B型	1	0	1	4	16
		C型	0	0	0	0	1
		その他	1	0	1	1	0
	急性脳炎	0	1	1	8	8	
	クロイツフェルト・ヤコブ病	0	0	0	0	8	
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	4	1	5	8	11	
	後天性免疫不全症候群	1	3	4	53	138	
	内訳	無症候性キャリア	0	1	1	26	73
		AIDS	1	1	2	26	56
		その他	0	1	1	1	9
	ジアルジア症	0	1	1	3	1	
	髄膜炎菌性髄膜炎	0	0	0	0	1	
	梅毒	5	3	8	28	53	
	内訳	無症候	2	0	2	10	23
		早期顕症	2	3	5	15	27
		晩期顕症	1	0	1	3	3
	破傷風	0	0	0	1	3	
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	0	0	0	0	2	
風しん	1	0	1	6	3		
麻しん	1	6	7	20	32		
総 計		149	108	257	1,255	2,704	

*O157;21件、O血清型不明;2件。HUS発症;1件。

五類感染症(月報定点把握対象)発生状況

	疾病名	2011年6月			2011年 総計	2010年 総計
		愛知県 <small><名古屋市除く></small>	名古屋市	愛知県 全体	愛知県 全体	愛知県 全体
性 感 染 症 定 点	性器クラミジア感染症	76	54	130	754	1,680
	性器ヘルペスウイルス感染症	26	18	44	311	609
	尖圭コンジローマ	18	13	31	160	355
	淋菌感染症	28	31	59	330	822
基 幹 定 点	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	86	22	108	691	1,239
	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	7	3	10	91	238
	薬剤耐性緑膿菌感染症	0	0	0	0	4
	薬剤耐性アシネトバクター感染症*	0	1	1	2	-

*2011年2月からの報告対象疾病

感染症の類型及び定義(感染症法)

類型	定義
一類感染症 (7疾病)	感染力、罹患した場合の重篤性等に基づく総合的な観点からみた危険性が極めて高い感染症。患者、疑似症患者及び無症状病原体保有者について入院等の措置を講ずることが必要。
二類感染症 (5疾病)	感染力、罹患した場合の重篤性等に基づく総合的な観点からみた危険性が高い感染症。患者及び一部の疑似症患者について入院等の措置を講ずることが必要。鳥インフルエンザ(H5N1)が平成20年5月12日の法改正により従前の四類感染症鳥インフルエンザから除かれ、二類感染症に追加された。
三類感染症 (5疾病)	感染力及び罹患した場合の重篤性等に基づく総合的な観点からみた危険性は高くないが、特定の職業への就業によって感染症の集団発生を起こしうる感染症。患者及び無症状病原体保有者について就業制限等の措置を講ずることが必要。
四類感染症 (42疾病)	動物、飲食物等の物件を介して人に感染し、国民の健康に影響を与えるおそれがある感染症(人から人への伝染はない。媒介動物の輸入規制、消毒、物件の廃棄等の物的措置が必要。)
五類感染症 (42疾病)	国が感染症の発生動向の調査を行い、その結果等に基づいて必要な情報を国民一般や医療関係者に情報提供・公開していくことによって、発生・まん延を防止すべき感染症。
新型インフルエンザ等感染症 (2疾病)	インフルエンザのうち当該感染症に対する免疫を獲得していないことから、生命及び健康に重大な影響を与えるおそれのあるもの。新型インフルエンザ(新たに人から人に伝染する能力を獲得したウイルスのよるもの)及び再興型インフルエンザ(かつて世界規模で流行したウイルスによるもの)が平成20年5月12日に指定された。
指定感染症	既知の感染症(一～三類及び新型インフルエンザ等感染症を除く)のうち、一～三類感染症と同程度の危険性を有し、それらに準じた措置を実施しなければ、国民の生命及び健康に重大な影響を与えるおそれがあるもの。一年間に限定した指定。
新感染症	人から人に伝染すると認められる疾病であって、既に知られている感染性の疾病とその病状又は治療の結果が明らかに異なるもので、当該疾病にかかった場合の病状の程度が重篤であり、かつ、当該疾病のまん延により国民の生命及び健康に重大な影響を与えるおそれがあると認められるもの。

